

### 1.3 EM 探査

#### (1) 調査内容

EM探査は、追加試掘調査②（県 H22-ケ-4）地点のトレンチ調査で確認されたドラム缶等の分布を把握することを目的としたものである。

EM探査は深度 5m~10m 程度の地表面付近における地盤中の磁化特性を面的に把握するために有効である。旧焼却炉周辺および西側市道沿いにおいて、EM 探査を実施した。本調査では、解析精度を高めるため電極間隔は 2.5m とした（図-1.3.1~ 1.3.2 参照）。

#### (2) 解析結果

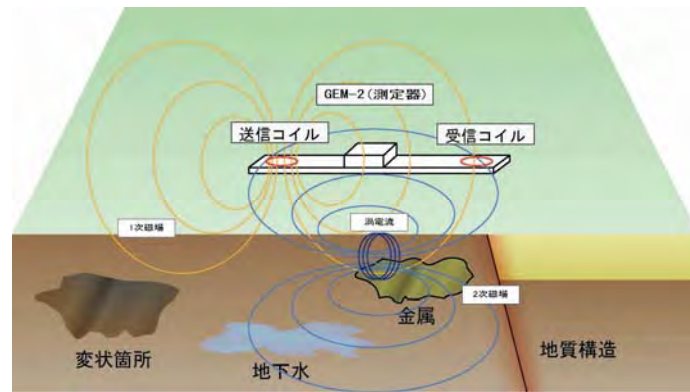
磁化率解析では、磁場を形成しやすいもの（ドラム缶、金属くずなど）は赤色系とし、磁場を形成しづらいもの（木くず、コンクリート塊など）は青色系にて表記するものとした。なお、低比抵抗解析は、高密度電気探査と同様である。

本調査にて得られた解析結果（磁化率分布図、比抵抗分布図）を、図-1.3.3 に示す。この解析結果ならびに掘削調査結果（確認されたドラム缶の分布等）から推察される廃棄物等の分布状況は、以下のように整理される。

- **旧焼却炉周辺**：県 H22-ケ-4 孔の近傍および北側等の 3 箇所において、相対的に磁化率が概ね  $30 \times 10^{-3}$  程度と大きな区画が確認された。この磁化率の大きな箇所には、ドラム缶や金属くず等の磁場を形成しやすい廃棄物が分布する可能性が考えられる。

磁化率は低いものの、低比抵抗帯が 3 箇所確認されており、この区域では、塩類等の電解質に富む焼却灰等が分布している可能性が示唆される。

- **西市道側**：上記と同様に、相対的に磁化率が概ね  $30 \times 10^{-3}$  程度と大きな区画が 2 箇所確認され、ドラム缶等が分布する可能性が考えられる。



【探査概念図】

【探査状況例】

図-1.3.1 EM 探査の調査概要と実施事例

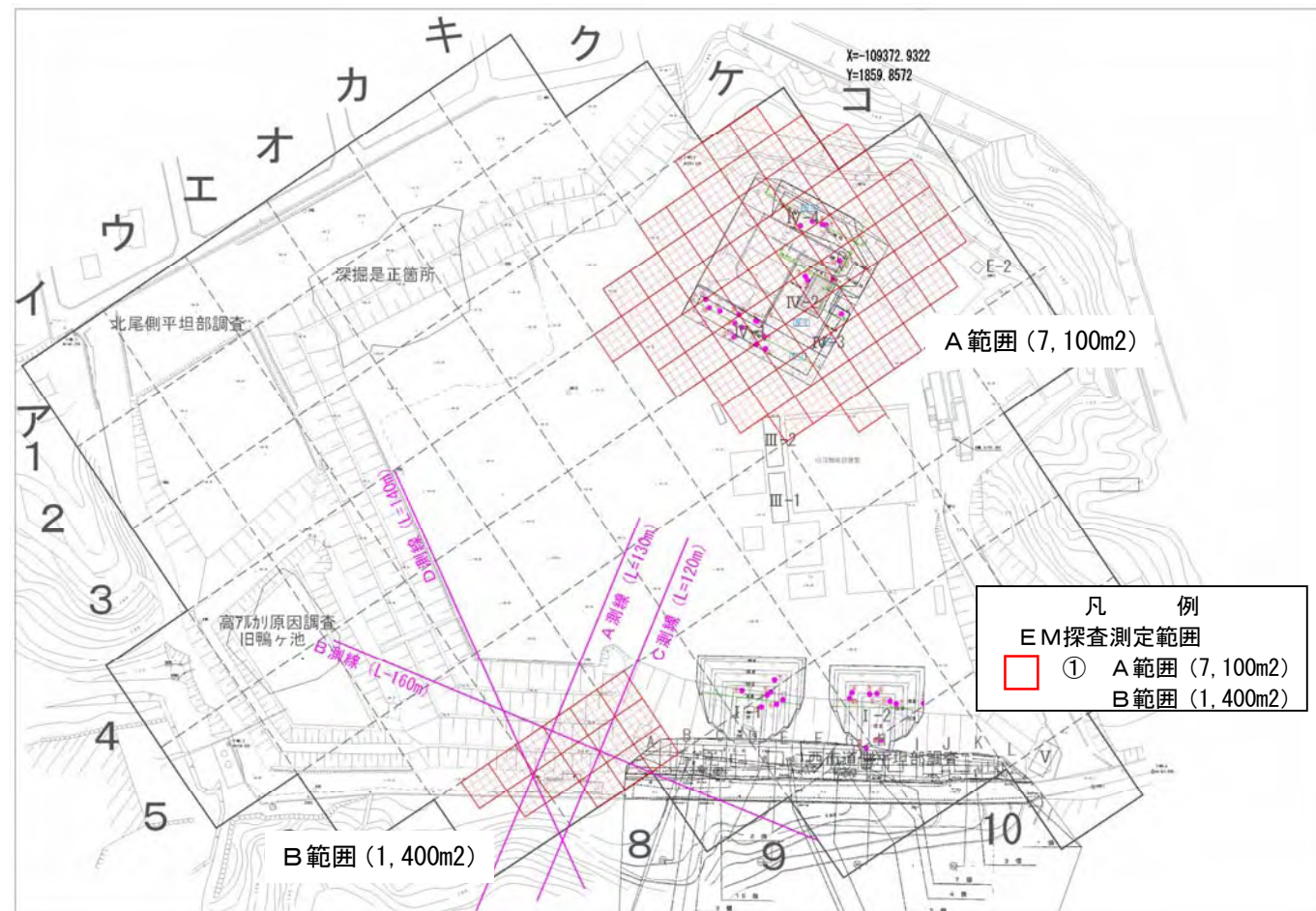


図-1.3.2 EM 探査測定範囲

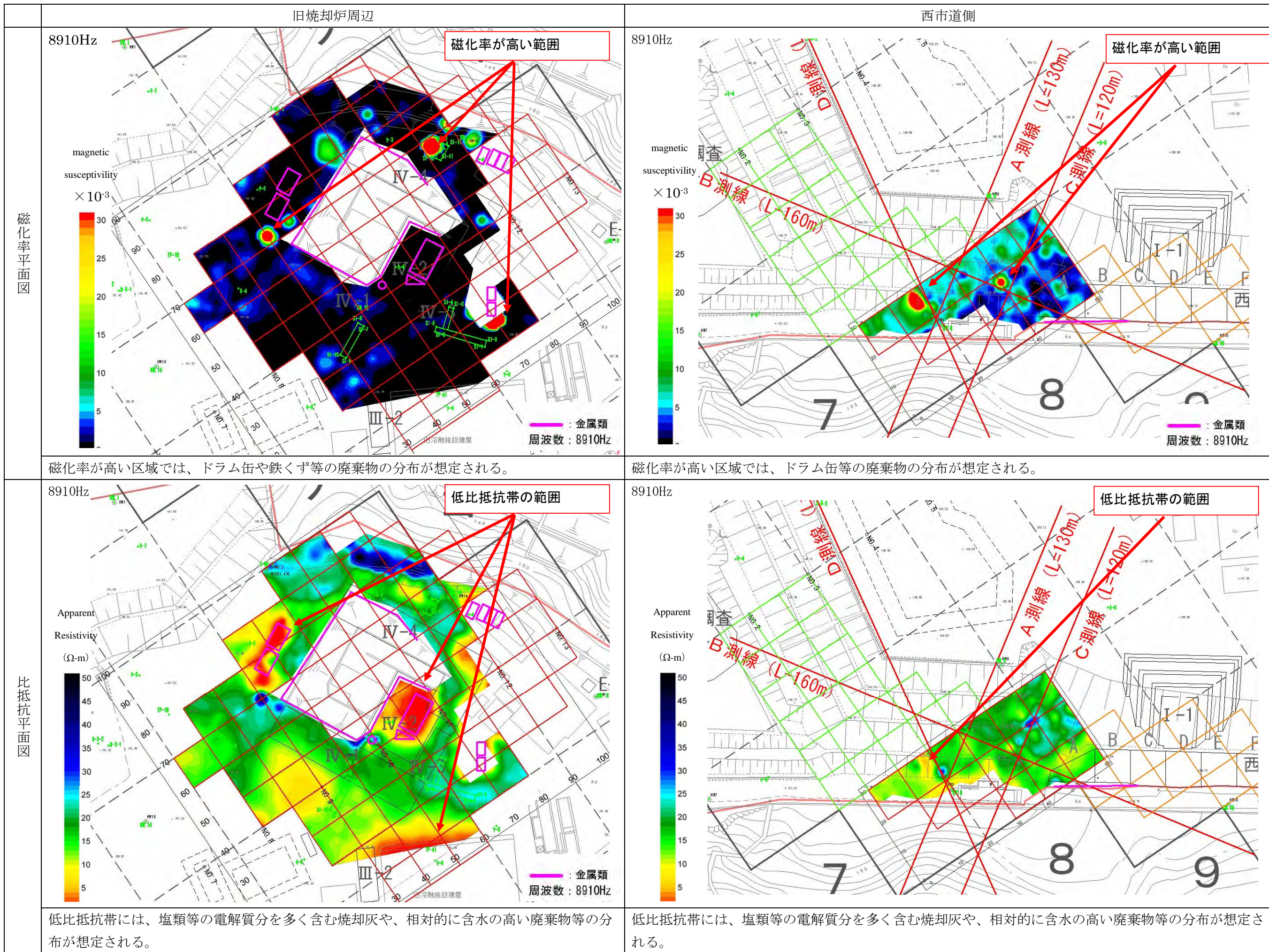
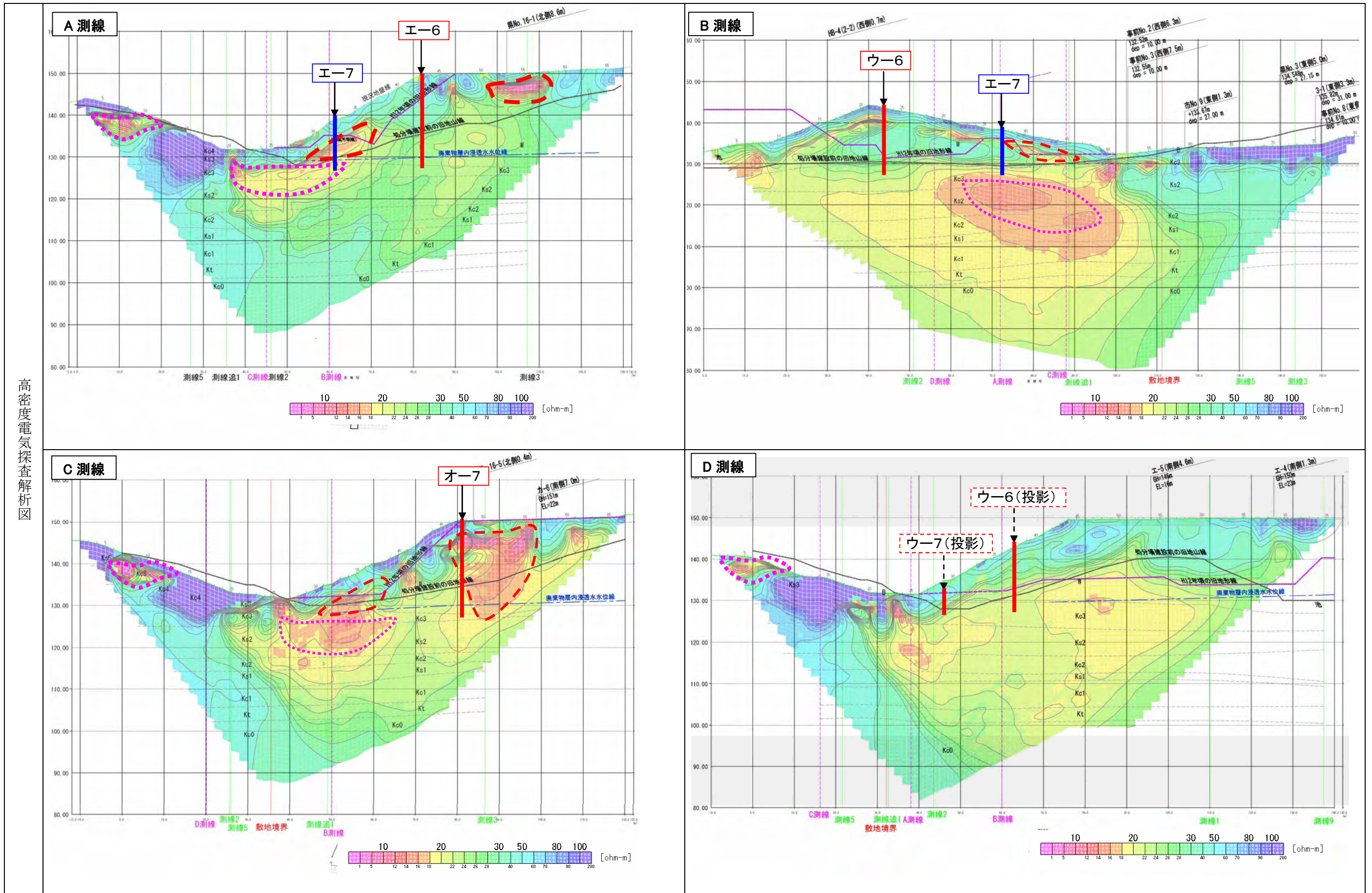


図-1.3.3 EM 探査解析図  
参考 1-9

(3) ボーリング調査 (案)

ドラム缶の有無および分布範囲の詳細を確認するため、「3.3 高密度電気探査」および「3.4 EM 探査」のそれぞれの結果を踏まえ、ボーリング調査地点 (案) を計画した (図-1.3.4~1.3.5 参照)。



高密度電気探査解析図

図-1.3.4 高密度電気探査【A~D 測線】解析図 縮尺 1:400

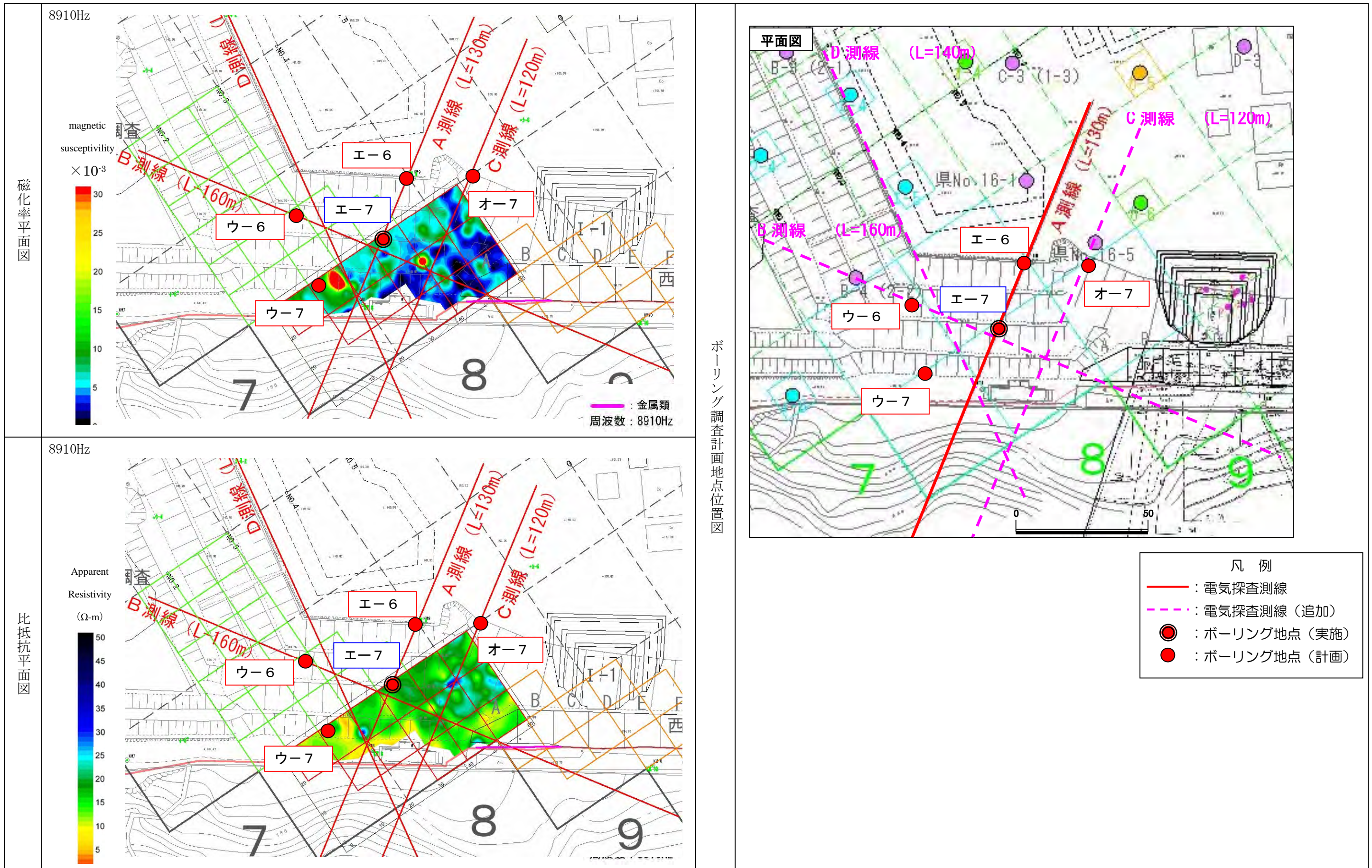


図-1.3.5 EM 探査解析図・ボーリング調査計画地点位置図